整理番号

D－1－1　　319

標 題 名

農事試験成績要報第１５号

國府煙草火力乾燥

著 者 名

発行者名

農商務省農事試験場

発 行 年

明治 37 年(1904 年)

製作年月

2019年10月

明治三十七年二月

農事試驗場要報

第十五號

國府煙草火力乾燥

農事試驗場

火力乾燥國府煙草

眞形四分一

本報載する處の火力應用葉煙草乾燥法は昨明治三十六年本場附屬茨城縣久慈郡太田町煙草試驗地に於て全郡の銘葉國府種に就き施行せる一新法にして之が乾燥上の操作に關しては曩に公にせる神奈川縣中郡秦野煙草試驗地に於て案出せし順序方法に比し大に其趣を異にせるも其方法の合理的なるは兩者皆一なり即ち錄して煙草栽培家の參考に資す

明治三十七年一月

農事試驗場

（東京西ヶ原）

目次

試驗地と主産地との土地狀況の比較
本試驗施行の由來及目的
耕種の梗概
乾燥室の構造及吊り込法
乾燥法
乾燥葉煙草及製品の調査
結論

農事試驗場要報第十五號

國府煙草火力乾燥

試驗地と主産地の土地狀況の比較

本試驗の成績を記述するに先ち。少しく當試驗地圃場の狀態竝に其位置等に就きて述ぶる所あらんとす。是れ單に本郡主産地との比較に便し。依て以て煙草性質の異る所以を知らしめんとするのみならず。一般成績の上に於て彼我對照の便あればなり。左に其觀察を概述せん

氣候及地勢　試驗地圃場の所在地は東南は臺地を劃り。西北は遠く畑地を隔てゝ民屋に接し。四邊開濶なる平地にして常に氣流の轉換旺盛なるを以て。温熱と濕氣を奪ひ去ること多く。爲めに氣温は比較的に冷涼にして空氣乾燥するものゝ如く。試驗地にて生産せる煙草葉の組織稍粗造なるを

免かれざるは。蓋し之が爲めならんか。之に反して煙草主産地は（久慈郡金砂村大字赤土地方を指す）其地勢山岳を以て圍繞し。朝夕は殆んど光線を受くることなし。然れども良好の煙草を生産するは。其産地多く南面の山麓又は山腹にあるを以て日中は光線を受くること多く。從て頗る高溫なるのみならず森林草木及溪流より蒸發する水分は能く空氣の乾燥に過ぐるを防ぎ。山岳は朝夕の氣流を妨げ。自然に氣候の劇變を節減し乾燥其宜しきを得たる地方的氣候を生ぜしむるが爲めなり。尙溫度の高き一例を示せば。生産地に於ける麥作の成熟期は。之を試驗地所在地に比し約二週間早きを常とす。亦以て其一般を窺ふに足るべし

土性　試驗地の土壤は表土より底土に至るまで埴質壤土にして。俗に所謂「ノッポー」と稱す。其理學的組織は良好ならざるも。而かも煙草の生育は敢て不良なりと云ふべからず。且其品位も劣等ならざれども。之を主産地たる

赤土地方所産のものに比較する時は。其徑庭尠少にあらざるを見る。即ち主産地の土壌は表土礫質壌土にして。底土は粘土質に礫を混じたる俗に所謂「カベ」なるにより。表土は氣水の流通良好にして底土は適度の濕氣を含み煙草の生育を助くるものなるべし。即ち單に排水の佳良なるのみならず水分を保持し。相待ちて煙草の生育に適當なる狀体にあらしむるや疑なし。加之其施肥の消化力に至りては此間驚くべき差違あり。即ち主産地に於ては麥作の當時山野の粗朶を地中に埋めたるもの。翌年煙草移植の際には既に腐敗し盡くすも。試驗地の土壌にては到底斯の如き活潑なる消化力あることなし。以て彼我土性の差違の著しきものあるを知るに足らん

乾燥　濕氣多く温度高き主産地に生育したる葉質柔軟にして薄き煙草は。比較的低温度にて乾燥すべく。且温度高きが故に葉中成分の變化は充分に行はるべしと雖。濕分多きを以て外氣の影響を蒙り色澤暗褐色を呈するの恐

あり。而して試驗地四近の地に成產する葉肉厚き煙草は。之を主產地と構造同じき家屋に於て乾燥する時は。外氣の乾燥せると温度低きが爲め。葉中成分の變化は充分に行はれずして煙草の表裏其色澤を異にし。從て香味の生成も亦充分ならざるもの〻如し

以上列記する所により。銘葉の產地と本試驗地及其附近の煙草產地に於ける地形、氣候、土性及乾燥等に關し其差異の大なるを知り。併て其生產物の品位如何を推考するに難からざるべし。即ち當試驗地及附近農家の煙草は葉質粗造にして彈力に乏しく引火不良にして香味乏しく。專賣局倍償價格は最も良好なる上等幹乾本葉にして約六等貳圓貳拾錢なり。然るに主產地の煙草は葉質柔軟にして薄く。彈力を有し引火最も佳良にして香味に至りては。固より前者の比にあらず。而して上等幹乾は專ら專賣局等級一等參圓參拾錢なり。以て其等差の如何に大なるかを知るに足らん

本試驗施行の由來及目的

本試驗の主眼とするところは。火力乾燥法即ち火力を應用する一種の乾燥方法を在來の屋內乾燥に替へ。左の主點に就きて果して豫想の如き好成績を得らるべきや否を試んこせり。其由來と目的こを畧記すれば左の如し

一　色澤國府煙草は味緩和にして香氣あるは。既に一般世人の認むる所なるも。色澤に至りては暗褐色に近く爲めに外觀上多少の非難あるを免れず。且製造上に於ても之が色澤を優美ならしめんが爲め。別に他の產地より色澤用の葉煙草を仰がざるべからざるの傾向あり。夫れ色澤は葉煙草及刻煙草共に第一着に鑑定の資料となり。喫烟者の注意を引くものにして。品質上主要なる位置を占むる者たるは言を俟たざるなり。然るに國府煙草の暗褐色なるものは此種の特質なるや否やに就き茲に疑を抱くこと久し。依て

數年此等各種の疑點に對し終始觀察を下し。竟に乾燥上色澤の改良は蓋し不可能の事にあらざるを信じ。本年初めて之れが試驗を擧行せり

二　香味前述の如く色澤は固より主要なる試驗の一目的なりしも。而かも香味之に伴はざれば。其効未だ全からざるを以て。乾燥期中常に之が生成に注意し。尚此際煤煙は國府煙草に特有なる香味の素因なりと稱し居るも。或は乾燥中温度の如何により生成し得るものにあらずやこの疑あるを以て併せて此問題を解決せんとせり。專賣制度發布以前に於ては色澤如何に佳良なるも煤煙の氣を有せざるものは。市價に於て非常の相違ありしものなりと云ふ

三　乾燥法の標準前記の色澤及香味の二者に於て成効せば。乾燥法の一標準となすを得べきを以て。本試驗の主眼たる乾燥方法に就き專ら之が方式を作らんことを務めたり。顧ふに從來國府幹乾は自家室内に懸吊して乾燥す

るものなるが故に。晝間戸障子の開放により太陽の温度を通じ。夜間之を閉鎖して外氣の冷涼を防ぐを以て。自然室内を温暖に保ち煙草乾燥上に於ては好箇の狀態にあるものこす。加ふるに日々屋内に於ける焚火又は爐火は乾燥を幇助すること最も有力なりこす。然れごも煙草乾燥上特に火力を以て操作を施す如きは甚だ稀なるに由り。其年の氣候如何に依て煙草の品質に非常の相違を來すを免れず。又家屋の位置構造如何に依りても亦多少異りたる結果を呈するものこす。是農家をして種々の疑惑を生せしむる所以にして。畢竟煙草乾燥上未だ憑るべき一定の標準なきが故なり。勿論氣候濕潤なる際は乾燥良好ならず。乾燥の氣候には比較的結果佳良なるは何人も知るところなるが。煙草を懸吊したる初期に於ては如何なる溫度が必要なりや。其中期又は終期に於ては如何。此等の點に注意して精密なる乾燥を行ふものあるを聞かず。尤も目下農家居宅の構造は意の如く温度を調

節するに不充分なるのみならず。且常に出入して各種の事業に從事せざるべからざる等の困難なる事情少からず。然れども若し茲に一の標準あれば之に從て不充分ながらも多少の操作を加へ得べく。且從來の乾燥法にて朝夕火氣を受くる所と外氣の影響多き所に懸吊したるものは。此間互に其色澤香味を異にするものにして。即ち竈の上に吊りたるものは比較的優等の煙草を得るも。出入口に近く懸吊せるものは色澤不良にして香味も亦從て宜しからざるを常とす。此等の事實により考ふるも煙草生産地にして熟帶若くは半熟帶にあらざる限りは。之が乾燥に火力を利用するの必要にして直接外氣の流通に暴露るの不可なるを知るべし。然るに在來乾燥法は陰乾に聊か火力の補助を與へたるものにして。火力の必要は之を認めざるにあらざるも。未だ如何なる方法により如何なる程度まで。之を供給するを以て最も良好なる煙草を乾燥し得るやに至りては。未だ憑るべきの標準あ

らざりしなり。此れ本試驗問題の起りたる所以なり。之を要するに本試驗の主要の目的は火力乾燥法によりて(一)本邦刻用として色澤美麗なる乾葉を得らるべきや否(二)全法によりて所要の香味を生成せしめ得べきや否(三)若し色澤香味に於て其目的を達したりとすれば之が乾燥に要する温度の標準を檢定せんとするにあり

耕種の梗概

苗床は二月十五日揚床とし。幅四尺長さ適宜にして一間毎に長さ尺餘の松材の棒を打ち込み。棒の上部及中央に約徑三寸の竹を横に結び。之に簟を編み付けて周圍を包み。一坪に就き落葉二十貫を入れ充分鎭壓したる後堆肥二十貫を置き。此上に簟一二寸を敷き後耕作土を四寸厚さに載せ。然る後篩を通したる細土を一寸厚さに均布し。播種二週間前兼て準備し置きたる大豆、油粕、

堆肥を混合醱酵せしめたるものに。木灰を入れ淺く表土に混入し。尙人糞一斗を施せり。其肥料の量は一坪に就き大豆一升五合。油粕一升二合。堆肥二貫。木灰一升五合の割合なり。三月二日床面を鍬を以て鎭壓して播種す。種子の量は一坪に就き五分にして。之に適量の麪を混じて散布し。此上を再び鍬背を以て鎭壓し。後如露にて水を注ぎ薄く藁を排列し。尙菰を覆ひて霜を防ぎ。苗床の周圍には鼷鼠の害を防ぐ爲め。深さ凡そ三尺の溝を穿ち。尙此外圍は東、北、西の三方に高さ六尺の藁圍をなし。防風防寒の用に供せり。管理の方法は晴天にて温暖なる日は菰を取除き仝時に敷藁を反轉し。種子の厚薄なく一樣に發芽せしむるに務め。若し床面の乾燥に過ぐるときは朝夕淡水及風呂水を注ぎ濕氣を與へたり。斯くて四月三日發芽を初め仝く發芽の終りたる頃を見計ひ。敷藁を除き日暮より葭簀を以て床の上部に載せ。其上を菰にて覆ひ置き寒氣强きときは日中こ雖之を除去せず。而して氣候漸く進み溫

度日に加はり降霜の恐なきに至りて防寒、防霜の覆物を除去したり。又間引は三回こなし最後に一寸四方に一本の割合を以て間引を終れり

六月三日移植の時期に達したるを以て。本圃に移植せり。本圃は畦幅三尺株間一尺にして。肥料は一反歩油粕四十貫、堆肥四百貫、木灰八貫を折半して。一半は移植の際に一半は土寄の際に之を施せり。移植の際は旱天連續して土壌乾燥し水分に缺乏を告げしを以て。時時灌水を行へり。然るに六月下旬より降雨頻繁こなり。當時煙草生長其度に過ぐるの觀ありしを以て。微雨なるに係はらず土寄をなしたり。之が爲め土壌凝固し一時煙草の生育に障害を與へ七月下旬より收穫期に至るまでは再び旱天打ち續きたり。故に本年の煙草は概して其生育充分なりこ云ふべからず

乾燥室の構造及吊込法

乾燥室は米國黃色煙草の火力乾燥室を充用したるものにして。其構造は載せて農事試驗場特別報告第十三號に詳かなり。今其概畧を鈔出せんに

桁行三間三尺。梁間三間。高さ地盤より軒桁まで十六尺四寸五分の木造平家建にして。此建坪十坪五合なり。室の前面には高さ內法六尺。橫內法四尺の兩開き板戶二枚釣の出入口を設け。左右の側面には。長さ六尺高さ三尺の回轉自在なる通風窓各一箇所を設け。前面出入口の左右に。高さ三尺。幅三尺。長さ八尺の煉瓦竈二箇所を築造し。其一部約一尺は屋外に出し。室內の竈尻より口徑一尺。長さ凡二十九尺の導火鐵管を接續し。十一尺の所にてU字形に彎曲し。前鐵管に並行せしむること十八尺にして室外に出し。此部分より口徑五寸。長さ十二尺の煙筒となりて屋上に達す。其室外に出づる處に閉煙の裝置を設く。而して前記乾燥室の構造は本試驗地に於て實際に供用したるものなりと雖。其構造の方法は決して一二に止まらざるなり。要は只一箇若

くは二箇の長方形の竈を設け。其焚き口を一尺許り室外に出し。竈の後側より鐵管を室内に引き廻し。其末端を室外に出して煙を排除せしむるの裝置をなすにあり。故に其建物の如きは或は新に之を築造せずして。適宜物置等を利用し得るものとす

葉煙草吊込みの方法は。室内の左右上部軒桁の所より。細竹を横に八寸距に結ひ付け。煙草は幹乾なるを以て竹串を下部の幹に 形に打込み。約六寸の距離に前の横竹に懸く。此一段の總本數は約七百本なり。即ち本試驗に於ては材料の都合により。一段に懸垂したるもの尚二段三段に懸吊し得ること勿論なり。又葉煙草は收穫すること同時に之を吊り込むを以て普通とするも。聯乾の場合に在りては一夜屋内の土間に堆積し。翌日聯ことなして吊り込むも亦可なりとす

乾燥法

乾燥は本試驗の主眼なり。即ち火力を應用し色澤鮮美なる本邦刻用葉煙草を得んとするにあり。其方法は便宜の爲め之を三區に區分し。左に實施せる日誌を揭げ以て說明に代ふべし

第一期　葉を黃變せしめ褐色に變化すべき動機を起さしむ

八月十七日　午後二時四十五分煙草吊り込みを終り。室內を密閉し華氏九十度を目的として點火す。此時室內の溫度は乾球七十九度濕球七十七度を示し。午後十時まで焚火を續け九十度內外を保持す

八月十八日　午前四時より點火す。午前七時の觀測は乾球七十八度濕球七十六度。正午乾球九十一度濕球八十八度。午後五時乾球九十四度濕球九十二度を示し。前日同樣九十度を目的として午後十時まで焚火す

八月十九日　前同樣午前四時より點火。午前五時三十分乾球九十度濕球八十

九度を示す。此時中葉は殆んど黄變し。本葉、天葉は萎凋し。本葉は稍黄色を帶ぶ。正午乾球九十九度濕球九十七度。尙九十度の目的を以て午後十時まで焚火す

八月二十日　前仝樣午前四時より點火。午前八時乾球八十四度濕球八十二度を示す。此時本葉は黄變し。天葉の大部分黄色を帶ぶ。正午乾球九十四度濕球九十二度半。午後三時四十分乾球八十九度濕球八十七度を示せり

備考　此間延時間七十二時五十五分にして。溫度の操作は午前四時より午後十時に至るまで成べく九十度の溫度を保つ目的を以て焚火したるも。午前十一時頃より午後四時頃までは外氣の溫度昇騰するが爲め。自然之が影響を受け。室内の溫度も亦九十度以上に上昇すること數〻あり。然れども之が爲め大なる障害を受くることなかりし。又午後十時より翌日午前四時まで焚火を止めたるは。常に九十度の溫度を繼續するときは葉

色先づ黃變し更に進んで褐色となるの餘地なからしむるの恐あるを以て夜間の六時間は事故に消火して溫度を下降せしめ。以て褐色に變化するの時機を與へんが爲めなり。然れども乾燥室は依然密閉しあるが故に。焚火の餘熱は此消火時間中全く消散することなく。低溫の時と雖亦八十度內外を示すを以て。葉中の變化は常に間斷なく繼續せられつゝあるものこす

第二期　褐色を顯出せしめ香味を生成せしむ

八月二十日　午後三時四十分より焚火し。百度內外の溫度を繼續せしむるを以て目的こせり。午後十一時乾球百三度濕球九十九度を示せり

八月二十一日　午前五時乾球百五度濕球百三度を示す。此時天葉は褐色に變じ。本葉以下の大部分は黃色なり。正午乾球九十八度濕球九十六度。午後五時乾球百二度濕球九十六度。此時葉面大に乾燥するを以て深く室內の濕

度に注意し。誤て中骨を乾燥せしめ。黃色を固定するが如きことなからんを要す。即ち尙此時期にありて。葉の黃色部を褐色に變せしむるの必要あるを以て。未だ葉中に殘存する水分を利用し。更に終夜消火して室內の溫度を下降せしめ。急速の乾燥を防ぎ。以て其變化を助く

八月二十二日　午前六時より仝十一時まで僅かに焚火して成分の變化を助く

午前十時半乾球八十六度濕球八十四度。午前十一時以後は全く消火す

八月二十三日　午前一時乾球八十二度濕球八十度。此時より僅に焚火す。午前六時乾球八十九度濕球八十八度。此時中葉は光澤ある帶紅黃金色を呈し黃紅相交りて頗る美麗なる光彩を呈す。本葉は光澤ある紅色に點點黃金色を交へ。中骨は尖端より乾燥を始む

第三期　色澤の均整と中骨の乾燥

八月二十三日　午前七時消火。正午再點火す。此時乾球八十四度濕球八十三

度。當期も亦第一期と同じく晝間火力を加へ夜間放冷せしむ。然れども漸次中骨を乾燥せしむるの必要あるが故に。稍溫度を高め九十度以上百度以下の範圍内に於て乾燥するを以て目的とせり。午後四時乾球九十六度濕球九十五度。午後五時半乾球百二度濕球百一度。午後十時まで焚火せり

八月二十四日　午前五時半點火。此時乾球八十五度濕球八十四度を示し。最下部の中葉一枚は中骨殆んど乾燥したるも。尙其多數の中央部は未だ綠色を存せり。午前八時五十分乾球九十四度濕球九十三度。午前十時以後は署氣甚だ強きを以て夜に至るまで焚火せず。正午乾球九十八度濕球九十六度午後四時乾球九十六度濕球九十四度を示せり

八月二十五日　午前四時點火。乾球八十五度濕球八十四度。午前七時乾球九十二度濕球九十一度半。此時本葉の基脚部赤褐色となり。天葉は未だ異狀を呈せず。正午乾球九十五度濕球九十四度。午後五時乾球九十三度濕球九

十二度を示せり

八月二十六日　午前五時點火。此時乾球八十三度濕球八十二度。午前七時乾球百度濕球九十九度。正午乾球九十八度濕球九十六度。午後四時四十分乾球九十三度濕球九十一度を示す。此時本葉の中骨は過半乾燥せり。本夕冷風起り室内冷却するの恐あるを以て焚火を繼續す。午後八時乾球百二度濕球百度。午後九時乾球百三度濕球百二度。午後十時乾球九十五度濕球九十四度。此時天葉の中骨は其基脚部赤褐色に變じたるを以て。終夜焚火して中骨の乾燥に勉めたり

八月二十七日　午前八時乾球百二度濕球百一度。此日溫度の上昇すべきを慮り昨夜來の焚火を止む。正午乾球九十四度半濕球九十二度半。午後五時乾球八十九度濕球八十七度。此時中、本葉の乾燥は中骨に於て尙約三寸を殘す。本夜冷氣なりしを以て午後八時仝十時仝十二時の三回に點火す

八月二十八日　午前五時半點火。乾球八十度濕球七十九度半。前日來溫度稍急激に失したる觀ありしを以て。此日約九十度を標準として焚火せり。午前七時乾球八十五度濕球八十四度午前九時乾球九十度濕球八十九度。午後二時十五分乾球九十三度濕球九十一度。午後五時乾球八十八度半濕球八十度を示せり

八月二十九日　午前五時二十分點火。乾球七十八度濕球六十八度。正午乾球九十五度濕球八十度半。午後六時乾球八十七度濕球七十八度を示せり

八月三十日　午前三時點火。乾球七十九度濕球七十三度。午後二時乾球九十一度濕球八十四度。此時中葉の中骨殆んど乾燥す。午後七時乾球八十八度濕球七十度。午後十一時乾球九十度濕球八十度。本日は朝來冷氣なりしを以て時々點火したり

八月三十一日　午前五時點火。正午乾球九十二度濕球八十四度。午後五時以

後放冷す

九月一日　午前六時點火。乾球八十三度濕球八十度。此時本葉、天葉の中骨乾燥を終る。正午乾球八十八度濕球八十六度。午後七時半乾球百五度濕球九十七度。本日も亦時時焚火せり

備考　天葉の中骨乾燥に至るまで二百二十八時間を要したり。而して此期間に於ては專ら溫度の操作により色澤を均一ならしめ。併せて中骨を乾燥するにありこと雖。此中骨乾燥は高溫を以て急激に乾燥せしむるは甚だ不可なり。殊に此際注意すべきは天葉中骨の基脚部まで赤褐色に變せしむること。尙中支骨中に殘留する水分を利用し最も注意して葉色を整齊せしむるにあり

以上列記したるは三期の乾燥中に於ける操作の概要なり。然れども之を實際に應用するに當りては。氣溫の高低、天候、乾燥材料の狀態等により。適宜に

之を斟酌するの必要あるや固より論なしと雖。茲に注意すべき二三要點を擧ぐれば左の如し

一　室内は密閉し。外氣の流通光線の透過を遮斷し。室内水分の逸散を防ぐべし

二　室内の溫度は常に外氣より高きを要す

三　室内の溫度高きに過ぎて。急激に乾燥するときは綠色若くは黃色を固定し。豫期の鮮褐色に變化せざるべし

四　室内の溫度低きに過ぐるときは。葉色暗黑色を呈し或は腐敗を來すことあり

五　寒暖計の乾球と濕球との差は二乃至三度なるを要す

六　乾球と濕球との差が三度以上に達したるときは。室内に撒水するか又は濡れ薦を敷きて水分を補助するを要す

七　乾球と濕球との差が二度以内に減退するときは。屋上の通風口を開き少しく水分を排除するを要す

八　黄色より褐色に變ずるの時期に於ては。勉めて急激の乾燥を避くるを要す

九　吊り込より中骨乾燥まで。約十六日を以て終りたり

十　薪量は松材約百五十貫を要したり

巻末に前三期間に於ける溫度の調節を。曲線圖にて示せば大約圖の如し

乾燥葉煙草及製品の調査

前章の操作を終り普通の方法に依りて之を熟葉し。數日間堆積したる後。其乾葉及試製品に就き必要の調査を行ひ。大約左の如き成績を得たり

一　本法に依れる乾葉は。之を試驗地所在地の普通法即ち室内乾燥に依れる

ものに比し。其品質頗る優等なり

二　色澤は鮮麗優美にして主産地の銘葉に勝る

三　引火甚だ好良ならざるも。尚在來法に依るものに比して遜色なし

四　保火力は頗る強大にして。在來法の遠く及ばざること

五　喫味緩和にして惡癖なきこと

六　香味は試驗地所在地の普通乾燥法に依るものに比し大に高く。且つ之に伴ふ煤煙の臭氣なし

七　咽喉を刺戟するは在來の乾燥法に伴ふ缺點にして。本乾燥法によるものは此惡性なし。之れ煤煙の煙草葉に附着するなきが爲めなり

以上調査の結果を見るに。火力を應用せし本乾燥法に依りて能く色澤を優美鮮麗ならしめ。保火力を增大し。且咽喉の刺戟性を去り。在來の葉煙草乾燥上に一新改良を加へたるものにして。而かも喫味は緩和にして一種の香味を

有し。其比較的良好ならざる引火力と雖亦之を試驗地所在地方の生産品に對照するときは毫も遜色あることなし。故に尚細目に渉り研究改良を要するもの數多ありと雖。本試驗の當初の目的は明に之を達し得たりと云ふべし。即ち「一」火力乾燥法を應用して鮮麗優美なる褐色葉煙草を生産し得らるゝや否「二」煤煙の作用を借らずして煙草特有の香味を發生せしめ得らるゝや否「三」乾燥上溫度調節の標準如何の三問題は前記の調査成績に徴して容易に之を解決し得べきなり

結論

前數章を綜合して。本試驗の成績を考究するに。概ね左の如き結論を下すことを得べし

一　火力の應用により。大に乾燥期間を短縮し得ること

二　聯乾を行ふ地方に此方法を應用せば。大に勞力を減少し得ること

三　色澤優美なる葉煙草を得ること

四　色澤の濃淡は意の如くなすを得ること

五　煤煙の作用を借らずして。能く煙草特有の香氣を發生せしめ得ること

六　咽喉を刺戟するの惡性を除去し得ること

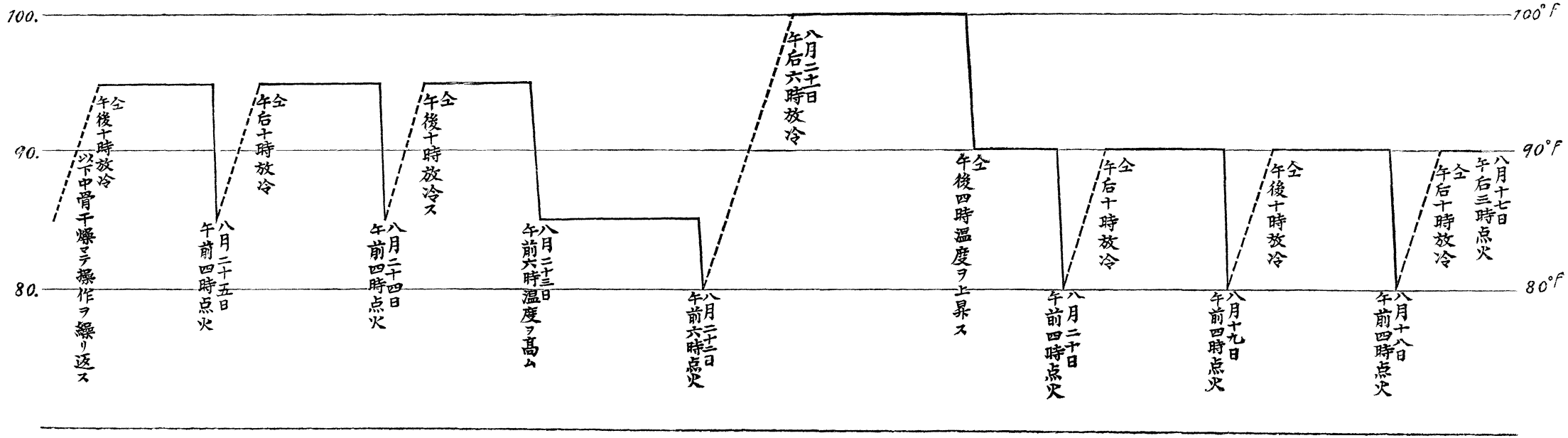
七　天候の如何に係らず。意の如く乾燥し得ること

八　乾燥期中氣候濕潤なる爲め。色澤を不良ならしめ又は腐敗せしむるの虞なきこと

九　雨中と雖收穫乾燥に從事し得るを以て。煙草の收穫時期を誤るなきこと

十　幹乾の聯乾に勝るは勿論なりと雖。聯乾にても毫も支障なきこと

國府煙草火力乾燥三期間ニ於ル温度表



明治三十七年三月十四日印刷
同　年三月十七日發行

農事試驗場

（東京西ヶ原）

印刷者　山村郁策
東京市京橋區京橋水谷町七番地

印刷所　日進舍
東京市京橋區京橋水谷町七番地
電話新橋五百九十番

植物防疫資料館
C-11-007
農業技術研究所
寄贈
D
1-1
319